

## 修了評価の評価方法

法人・団体名	
講習事業の名称	

### ◆講義及び演習科目の履修に係る評価方法及び評価基準

### ◆確認テスト（修了評価）の評価基準

基準作成日	年    月    日	基準作成者	
評価方法 及び 評価の基準	1	出題範囲	
	2	出題形式	
	3	出題数	
	4	知識・技術の修得確認基準	
	5	未修得となったときの取扱い	

## 記載例

(別添2-8)

### 修了評価の評価方法

講義、演習を行う中で、受講者が良好に受講しているかどうかの確認方法や評価基準を記載する。

法人・団体名	〇〇〇〇〇株式会社
講習事業の名称	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

#### ◆講義及び演習科目の履修に係る評価方法及び評価基準

講義及び演習の全科目について、各科目の終了時に、当該科目を担当する講師が、受講者が所定の時間の講義・演習を〇〇〇〇〇〇により良好に受講したことを確認する。・・・等

#### ◆確認テスト（修了評価）の評価基準

基準作成日	〇〇年 〇月 〇日	基準作成者	〇〇 〇〇
評価方法及び評価の基準	<p>1 出題範囲</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「1 (1)福祉用具の役割」から「5 (2)福祉用具による支援プロセスの理解・福祉用具貸与計画等の作成と活用」まで、全14科目の中から出題する。</li></ul> <p>2 出題形式</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全科目択一形式（〇択又は〇択）とする。</li><li>・択一形式（〇択）及び記述形式とする。 等々</li></ul> <p>3 出題数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・択一問題 〇〇問（各科目、最低〇問以上出題する。） 1問：〇点</li><li>・択一問題 〇〇問（配点：〇点）、記述式問題 〇問（配点：〇点） 等々</li></ul> <p>4 知識・技術の修得確認基準</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・科目ごとに知識・技術の修得確認を行う。科目ごとに点数を集計し、各科目〇点以上で、当該科目の知識・技術を修得したとみなす。 等々</li></ul> <p>5 未修得となったときの取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・結果発表後、未修得となった科目について、レポート課題を与え、〇日以内（当日の〇時まで）にレポートを提出させて、修了評価者が再度評価を行う。</li></ul> <p>レポート評価料：1科目〇円</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・結果発表後、修了評価者が直ちに〇時間の補習を行った上で、再評価を行う。</li></ul> <p>なお、再評価の基準は、4と同様とする。</p> <p>補習料：1科目（〇時間）あたり〇円 再評価料：〇円</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・結果発表後、未修得となった科目について、修了評価者が直ちに個別補習を行った後、当該科目の知識・技術を習得したことを確認する。</li></ul> <p>個別補習料：1時間当たり〇円 等々</p>		

科目ごとに評価できるだけの出題数、修得確認基準を定めること。

「確認テスト（修了評価）」の結果、未修得と判断した場合の補習の方法（修了評価者による補習やレポートの提出を求めるなど）やレポート提出後の再評価についての方法は、事業者が定めること。  
また、補習・レポート提出や再評価に、回数制限を設ける場合は、その基準を記載すること。